

近代日本文化研究Ⅰ

科目ナンバリング JLT-101

必修 2単位

濱田 陽

1. 授業の概要(ねらい)

「文化の時空」をテーマに人が築いてきた文化の理解を深め、十二支動物を導き手に日本文化を深く、広く学ぶ。
日本には気候、地形、植物、動物、人に顕著な多様性が見られ、これら生きとし生けるものが関わりあって豊かな文化が育まれてきた。日本文化の新たな世界に分け入るためには、近代の自然科学やテクノロジーが用いる時間、空間の仕組みを知るのみならず、文化特有の時間、空間に対する深い分析と考察が欠かせない。「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」。これらの言葉からも、日本人が自然、生きものの直接の関係から多様な時空を受け取ってきたことが分かる。

生命の時間から文化の時間へ、さらに文化の時空へ。野生の思考、文化の時計としての十二支に目を向け、曆に隠された深い意味に分け入りながら、個性あふれる動物たちとともに日本文化の豊饒の世界を旅していく。

2. 授業の到達目標

日本文化への柔軟な視座を養い、講義・教科書の内容をふまえて自身の感想を展開し、内容の深い考察をまとめる思考力、文章表現力を身につける。

3. 成績評価の方法および基準

授業参加、予習課題、期末レポートにより総合評価

4. 教科書・参考文献

教科書

濱田陽 『日本十二支考——文化の時空を生きる』 中央公論新社、2017年

※授業、予習課題、期末レポート作成に必須、必ず大学内の書店等で購入のこと。前期は本書前半を中心に学ぶ。通年受講を前提とし、後期の近代日本文化研究Ⅱでも引き続き使用する。

5. 準備学習の内容

・教科書に沿って次回授業で扱う予定箇所を通読しておく。一回の授業で平均15ページほど進むことを目安とする。
・学習内容の理解、期末レポートの準備に役立つ予習課題として、教科書で扱う予定範囲から、印象に残った見出しと本文箇所を引用し、その理由を数行書いてLMSオンライン上で提出する。

6. その他履修上の注意事項

・授業に沿って教科書本文の着目すべき箇所を自分の判断でマークし、気づいたことや考えを主体的にメモするなど(教科書に書き込んでもポストイットなどを用いてもよい)、少しずつ理解を深めていって欲しい。
・「7.授業内容」には教科書各章が割り振られているが、章によって分量の差があるため、じっさいの授業進行はある程度前後することがある。
・LMSオンライン上で重要情報はUPしていくため、対面授業前後にLMSの方も確認すること。

7. 授業内容

- | | |
|--------|--|
| 【第1回】 | 教科書『日本十二支考——文化の時空を生きる』及び本講義について |
| 【第2回】 | 第一部 生きとし生けるものの時空
第一章 生きとし生けるもの
日本文化の多様性について学ぶ |
| 【第3回】 | 第二章 五つの存在
自然、生きもの、人、つくられたもの、人知を超えるものの五つの存在から文化を理解する |
| 【第4回】 | 第三章 存在から時間へ
近代以降の時間のとらえ方の限界について考察する |
| 【第5回】 | 第四章 生命の時間、文化の時間
生命と文化からとらえる時間について学ぶ |
| 【第6回】 | 第五章 文化の時計—十二支
十二支を文化の時計としてとらえ考察する |
| 【第7回】 | 第六章 時間から空間へ
文化をつくる時間と空間について学ぶ |
| 【第8回】 | 第七章 生きとし生けるものの時空と統一時空
生命の時空と文化の時空の特徴を学ぶ |
| 【第9回】 | 第八章 日本文化の時空へ
第一部のまとめと第二部への導入を解説する |
| 【第10回】 | 第二部 十二支動物と日本文化の時空の旅—未来への伝統、過去なる近代、現在する物語
第一章 子一鼠 小さな宇宙 生きものへの深い信頼／近代の間／ねずみの幸福論
ねずみの存在を通して日本の伝統文化、近代、神話・物語を学ぶ |
| 【第11回】 | 第二章 丑一牛 大きな力 感謝するところ／いのちと食／特別な力
うしの存在を通して日本の伝統文化、近代、神話・物語を学ぶ |
| 【第12回】 | 第三章 寅一虎 強靱な真実 海を渡った霊力／残すべきもの／退治物語を超える
とらの存在を通して日本の伝統文化、近代、神話・物語を学ぶ |
| 【第13回】 | 第四章 卯一兎 弱さの希望 豊饒のシグナル／地下世界への導き、こころの鏡／いとおしい希望
うさぎの存在を通して日本の伝統文化、近代、神話・物語を学ぶ |
| 【第14回】 | 講義のまとめ
第一部から第二部第四章までの学習内容で得た日本文化への新たな視座、知識をふりかえる |
| 【第15回】 | 期末レポートのテーマ発表・解説 *LMSオンデマンド形式による授業、第12回直後(7月中旬)に実施予定 |